

## 地方の動物病院として

草村正人<sup>†</sup> (草村動物病院院長)

新潟市で動物病院を開業して30年になる。その当時の動物病院で、大きな機器はといえばレントゲン程度で、生化学検査の機械や超音波検査器などを備えている病院はほとんどない時代であった。その頃は、自分の病院で治療できずに、東京の大学病院へ紹介するような事例もほとんどなかったような気がする。

その後、小動物臨床のレベルは著しく向上し、CT、MRIなどの機器を導入する施設も出始め、さらに各分野で専門の医療を行う施設も増えたことから、私の病院で検査、治療ができない症例も、東京の2次診療施設へ紹介する道が整った。

しかし、動物の飼い主に、検査や手術のため東京の大学病院や2次診療施設を紹介しても、実際に東京で治療を受ける飼い主は5%にも満たないのが現実であった。

近くに2次診療施設がない、これは地方の動物病院の悩みである。自分の病院を頼って連れて来られる動物たちを東京の2次診療施設へ紹介しなければならない。このような現実を目の前にして、私の病院で治療できるようにしなければならないと思い始めた。

私は大学では外科の教室に所属し、科は得意分野であった。開業以来、大きな手術をする際、そのための器具を1つずつ購入してきたため、細かい外科器具は揃っていた。

一方、大きな機器については、7年前にCT装置を導入した際、同時に母校の研究生になり、手術法についても学び直すこととした。その結果、飛躍的に診断できる疾患が増え、その疾患に対する手術も数多く手掛けるようになっていた。

ただ、CTを導入したことにより、脳神経疾患の動物たちを診察する機会も増加し、脳腫瘍も診断できるようになった。しかし、当時は開頭手術をする技術もなく、結局、東京の2次診療施設へ紹介する以外の道はなかった。

そこで、さらに5年計画で、私の病院でも脳外科に対応できるように準備を進めることとした。そして、1年半前に病院を新築し、脳外科の手術も行えるようMRI装置、手術用顕微鏡などを揃え、眼科、心臓外科以外はほとんどの外科疾患に対応できる施設が完成した。さらに、外科以外でも、長く勤務をしてくれている獣医師たちは、新しい知識を貪欲に吸収し、第一線の獣医師に負けぬよう努力している。ようやく30年を経て東京の2次診療施設へ紹介することなく動物たちを治療できる動物病院になった。

現在、患者も多く来院するようになり、手術の症例も増え、ようやく手術にも自信をもてるようになった。私が第一線を退くのも数年後だと思っている。私が頸部椎間板ヘルニアの手術「ベントラルスロット」に成功したのは、開業して25年目である。しかし病院の若い勤務獣医師たちは勤務6年目で上手に手術を行っている。したがって、今後の私の役割は、地方の動物病院でも、最善の獣医医療が受けられるように、施設を整備、維持し、若い獣医師たちが技術を受け継ぐための、学習環境を整えることだと思っている。

臨床家獣医師としての残りの時間は限られている。自らも、今まで同様、目の前の診療に精一杯取り組みたいと思う今日この頃である。

## 草村正人

## —略歴—

- 1956年 新潟市生まれ
- 1979年 日本獣医畜産大学（現在は日本獣医生命科学大学）卒業
- 1984年 広島、横浜でインターン  
後新潟市中央区で開業
- 趣味はトライアスロン



<sup>†</sup> 連絡責任者：草村正人（草村動物病院）